

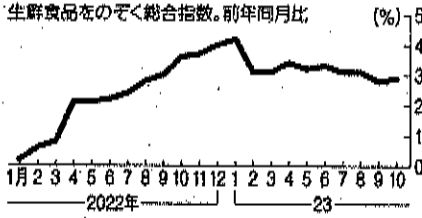
10月の物価 2.9%上昇

4カ月ぶり伸び拡大 宿泊も外食も

10月の消費者物価指数(2020年=100)は、
 値動きの大きい生鮮食品をのぞく総合指数が106.
 4となり、前年同月より2.9%上昇した。電気・ガ
 ス代引き上げのための政府の補助が半減し、4カ月ぶ
 りに伸びが拡大。食品の高騰も続き、身近なサービ
 スの価格も上がっている。

総務省が24日発表した。
 電気代は前年同月より16.
 8%、都市ガス代は13.8
 %下がったが、前月よりは
 上昇した。生鮮食品をのぞ
 く食料は前年同月より7.
 6%上がった。ただ値上げ
 の動きはやはり一服し、2カ
 月連続で伸びは縮まった。

消費者物価指数の伸びが4カ月ぶりに広がった
 生鮮食品をのぞく総合指数。前年同月比



ホテルは41.9%上昇。
 リンゴは29.4%、サンマ
 も24.7%上がった。

モノ↓サービス

モノが主役だった値上げ
 の舞台は、サービスにも広
 がっている。
 公共料金をのぞく民間サ
 ービスは2.9%押し、

1993年3月に記録した
 3.3%に迫る。調査項目
 の9割にあたる80項目が上
 がり、とくに宿泊料は42.
 6%伸びた。訪日客が増え
 て需要が膨らみ、全国旅行
 支那の効果も増えた。さら
 に人手不足が相場を押し上
 げている。

ランチや美容院のカット
 など身近なサービスの値
 もじわりと高くなってい
 る。給食をのぞく外食は4
 .6%上昇した。しょうが
 焼き定食やハンバーグは
 7%近く値上がりしてい
 る。東京・大手町で働く会

社員の女性46は「以前は
 1千円以内でランチが食べ
 られたのに、今は高くて
 気難に出かばられない。井
 当も中身が寂しくなった」
王将が上げると

大手のなかには「再値上
 げに際し切実な企業も出て
 きた。」「餃子の王将」を展
 開する王将フードサービス
 は10月、ギョーザやチャー
 ハンなど7品目の店内価格
 を2〜6円上げた。昨年11
 月に続く値上げだ。伊藤忠
 織研の中浜萌氏は「王将が
 値上げすると他社も続く傾

向がある」といって、値上げ
 の波は収まりきらない。
 「豚が命」の美容業界で
 も料金アップが相次ぐ。10
 月のカット代は前年同月よ
 り2.0%、ヘアカラー代
 は2.8%上がった。

リクルートが全国の男女
 約2600人に聞いたメン
 ケートでは、回答者の3割
 が値上げを経験。上昇幅は
 1千円未満が大半で、多く
 が受け入れていた。調査を
 担当した田中公幸氏は「多
 くの美容院はお客が離れる
 かもしれないと値上げに慎
 慮だった。ここに来て、よ

うやく適切な価格転嫁の動
 きが出てきた」と話す。
 田安も家計を苦しめる。
 みずほリサーチ&テクノ
 ロジースの酒井才介氏の試
 算によると、11月以降、円
 相場が1.11150円で原
 油高も現物の水準が続くと
 した場合、2人以上の世帯
 の23年度の出費は、前年度

より平均10万1千円かさ
 び。大半が食費で、9万6
 700円増えるという。
 酒井氏は「田安が直接的
 に負担となり、家計のゆと
 りがなくなる。個人消費が
 弱くなっている。今後景気
 にも影響するのではない
 か」と指摘している。

(米谷隆一、文隆泰)